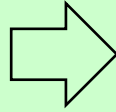


水田畑利用によるブロッコリーの生産拡大 ～ J A つがるにしきたつがるやさい部会ブロッコリー班 ～

経営体の概要

設立年：平成8年
基幹作物：ブロッコリー
受益内作付面積：5.0ha（水田）



現在：令和3年
基幹作物：ブロッコリー
受益内作付面積：57.0ha（水田）

取組の経緯と経営転換のポイント等

主食用米の需要減少による米価の低迷の中、市場からの情報を得て平成8年から水田畑利用によるブロッコリーの作付けを20人の農家により受益地内作付面積5ha程度で開始した。農家の省力・低コスト化や市場からの要求に応えるため青森県と連携し栽培方法の開発、つがる市(旧稲垣村)の転作推奨品種への指定、共同育苗施設、共同選果場及び製氷貯氷施設等の整備を行うとともに、令和3年には作付農家99人、作付面積は57haに拡大した。国営事業により安定供給される農業用水が栽培時のかん水に利用されている。

営農改善のポイント

①栽培技術の確立・向上

平畦でマルチを張らず除草を兼ねた中耕のみの栽培をJ Aが青森県の助言を受けて開発。追肥や病害虫防除の適正時期を、J Aと青森県が連携してメール等で営農情報を配信する等、省力・低コスト化、品質・収量の向上を実現している。

②経営規模の拡大

当初は個々農家で育苗や選別・箱詰めを行っていたが、J Aが平成9年から共同育苗、平成10年から共同選果を開始し、省力化が図られたことが作付面積拡大の一因となっている。

③流通・販売の工夫

流通過程の鮮度向上を図る必要に迫られたことから、平成17年に青森県内初の野菜用製氷貯氷施設を整備し、全面的に「共同選果＋氷詰め出荷」体制へ切り替えた。また、栽培面積拡大に伴い、平成22年に集出荷貯蔵施設、平成28年に製氷貯氷施設を増設、平成29年に形状重量式選果機を導入するなど、予冷から氷詰め、梱包まで効率的な出荷ラインを構築し、流通段階での品質確保を徹底したことから、市場から高評価を得ている。



製氷貯氷施設



共同育苗施設

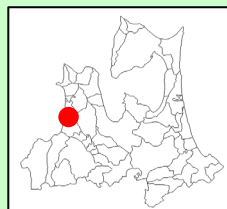


秋取りブロッコリーの育苗

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：弘前市、五所川原市及びつがる市
受益面積：10,580ha
事業期間：平成8年～平成27年
事業目的：用排水改良
主要工事：頭首工1箇所、貯水池1箇所
揚水機場2箇所、排水機場5箇所 等

位置図（青森県）



岩木川左岸地区

<問い合わせ先>

東北農政局
農村振興部農地整備課
電話：022-263-111
内線（4460, 4459）

（令和3年度調査時点）